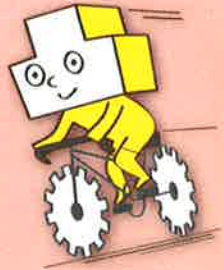


凸凹体感！

1-7

ペダルで実感！

# 明治通り を自転車でする



前著「地べたで再発見！『東京』

の凸凹地図」では自分の足で歩く「山の手台地縦断ウォーク」を企画しました。今回はペダルで実感する東京の凸凹ということで「ぐるっと凸凹ライド」、環状5号線、通称「明治通り」を自転車でする一周してみよう。

## 江東区からスタート

スタート地点は人口の埋め立て地、夢の島交差点（凸凹地図・A、写真①）。



写真① スタート地点、夢の島交差点

ここから高低差40mの凸凹ライドへ！スタート地点は標高5m。

首都高速湾岸線の直下、新木場駅前から北上を開始します。この周辺は物流拠点が多く、

大型トラックが頻繁に通る過ぎるの  
で要注意。永代通りを過ぎた辺りか  
ら標高は徐々に下がりはじめ、いわ  
ゆる海拔ゼロメートル地帯となりま  
す（16ページ図⑤）。隅田川と荒川に  
挟まれた江東区は、戦後の開発にお  
ける過剰な地下水の汲み上げで地盤  
沈下が進行、海拔0mないしそれ以  
下となり、高潮や洪水による浸水被  
害に悩まされてきました（①）。

なお、日本で最も低い水準点は南  
砂七丁目（B）にあり、その標高は  
「マイナス2・5m」。かつて水運が  
盛んだった名残で小さな運河がいく  
つも残っていますが、いずれも堤防  
が高く、そのため橋が急角度。海拔  
0m以下であることを実感させてく  
れます（②、③）。

## 墨田区を走る

北十間川を渡る福神橋（C）から  
は真正面に東京スカイツリーが見え  
ます（④）。丸八通りと合流してか

らは徐々に北西向きになり、下町の  
ど真ん中をひた走ります。国道6号  
線と交わる東向島交差点でようやく  
標高が0m以上になります。

## 台東区を走る

白鬚橋で隅田川を越えると台東区。  
方角がさらに西向きになってきます。  
南千住駅にほど近くなったところで  
泪橋交差点（D）を通過します。泪  
橋といえば『あしたのジョー』が有  
名ですが、川自体は暗渠化され橋の  
面影はありません。

## 荒川区を走る

昭和通り（国道4号線）を過ぎた辺  
りから徐々に標高が上がりはじめま  
す。大関横丁交差点（E）の北側に  
は、このあと何度も顔を合わせるこ  
とになる都電荒川線（⑤）の始発（終  
着）駅となる三ノ輪橋があります。

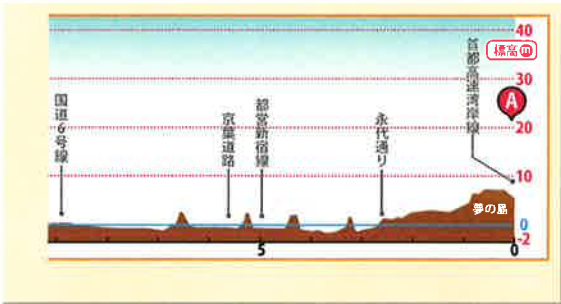
## 北区を走る

尾久駅近辺から東北本線としばら  
く平行して走り、清田橋交差点（F）

で左折するとすぐJR王子駅が現れ  
ます。高架をくぐると左手前方にい  
きなり小山が現れますが、これが桜  
の名所、飛鳥山公園。武蔵野台地の  
段丘崖そのもので、東京低地と山の  
手台地（武蔵野台地の東端）の境界に  
なります。その脇を一気に駆け上が  
っていきますが、急にペダルが重く  
感じるでしょう。都電荒川線の車両  
もエンジン全開で上っていきます。

なお、飛鳥山公園側にはモノレール  
が併設され、「山頂」まで無料で連  
れていってくれます（3ページ写真③）。  
この坂をほぼ上り切ったところ  
にある音無橋交差点の下（G）では、  
暗渠化された石神井川と旧河道の音  
無親水公園（74ページ参照）を見渡す  
ことができま

す。また、王子駅の北側にある「北とぴあ」17階ロビーか



らの展望は絶景です。山の手の台地と下町の低地が一望できるので(⑥)、ぜひ立ち寄ってみてください。

### 🚲 豊島区を走る

道は次第に南に向きを変え、中山道(国道17号線)との交差点を過ぎるまでは緩やかな上り。実はこの辺りが「本郷台」の頂部(H)。そこから少し進むと急に喧噪の度合いが濃くなり、やがて池袋駅が見えてきます。この辺りは「豊島台」。

さらに南下すると再び下り坂となり、千登世橋が見えてきます(I)。幹線道路同士の立体交差橋としては都内最古で、昭和初期に作れたもの(⑦)。脇にある階段で目白通りに上がるとその高低差を実感できます。ここから神田川に向かって一気に下っていきます。真横の都電荒川線を見るとその傾斜がよくわかるでしょう(⑧・112ページ参照)。

この近辺には急坂が点在しています。明治通りから一本東側には通称「のぞき坂」といわれる激坂がありますから(73ページ参照)、健脚自慢の方はぜひ「プチヒルクライム」にチャレンジして、神田川が刻んだ台地の際を体感してみてください(⑨)。

### 🚲 新宿区を走る

神田川を渡ると都電荒川線とはお別れ。明治通りはそのまま直進しますが、ここでじわりとペダルが重くなるはず。馬場口交差点までを上り切り、平坦になった道をそのまま進むと少し空が広く、そして静かになったような感じがするかもしれません。実は両側に大学や高校の敷地が広がっていて、その周りには凸凹を活かした戸山公園があるので(J)。少し足を延ばして休息がてらに公園散策もオススメです。

さらに南下するとビルに挟まれたオフィス街となり、甲州街道(国道20号線)との交差点に到着。ここが今回の最高地点(淀橋台)で、標高は約37・5m(K)。一番低いところから40m上がったこととなります。

### 🚲 渋谷区を走る

ここからおおむね下りになります。が、交差点が多いのでスピード出し過ぎに要注意！原宿警察署辺り(L)から、現在は暗渠となった渋谷川に沿って谷地形に入っていきます(80ページ参照)。渋谷駅南側では、地上に顔を出した渋谷川を見ることが出来ます(M、⑩)。

恵比寿に入ると東方向にカーブしはじめ、賑やかも落ち着き、緩やかな下りも相まってペダルも軽快そのものでしょう。

### 🚲 港区を走る・一周走破

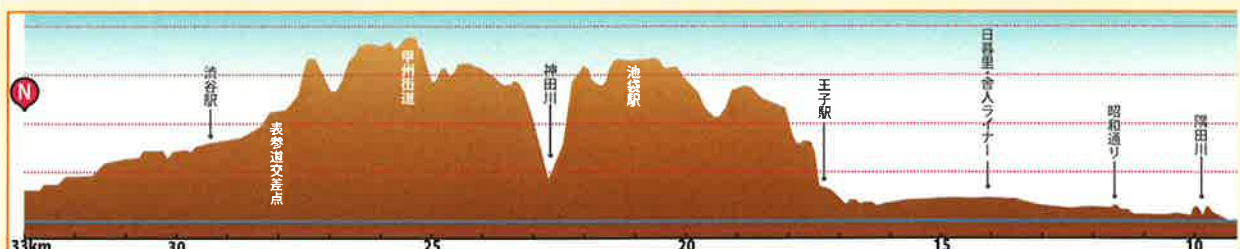
凸凹ライドも最終局面、渋谷川と併走しながらゴールを目指します。渋谷川は渋谷区・港区の境界から古川と名前を変え、次第に河川幅も広がってきます(82ページ参照)。首都高速の高架が合流してきて、正面にT字路が見えたらそこがゴールの古川橋交差点(N、⑪)。明治通りは行き止まりで終わりますが、もしそのまま真東に直進できたなら、スタート地点の夢の島交差点に行き着くはず？古川の流れに沿って芝公園に向かえば、今度は東京タワーが「お疲れさま」といわんばかりに迎えてくれます(写真②)。

いかがでしたか？約33kmの行程ですが、3時間程度あれば走り切ることができるでしょう。

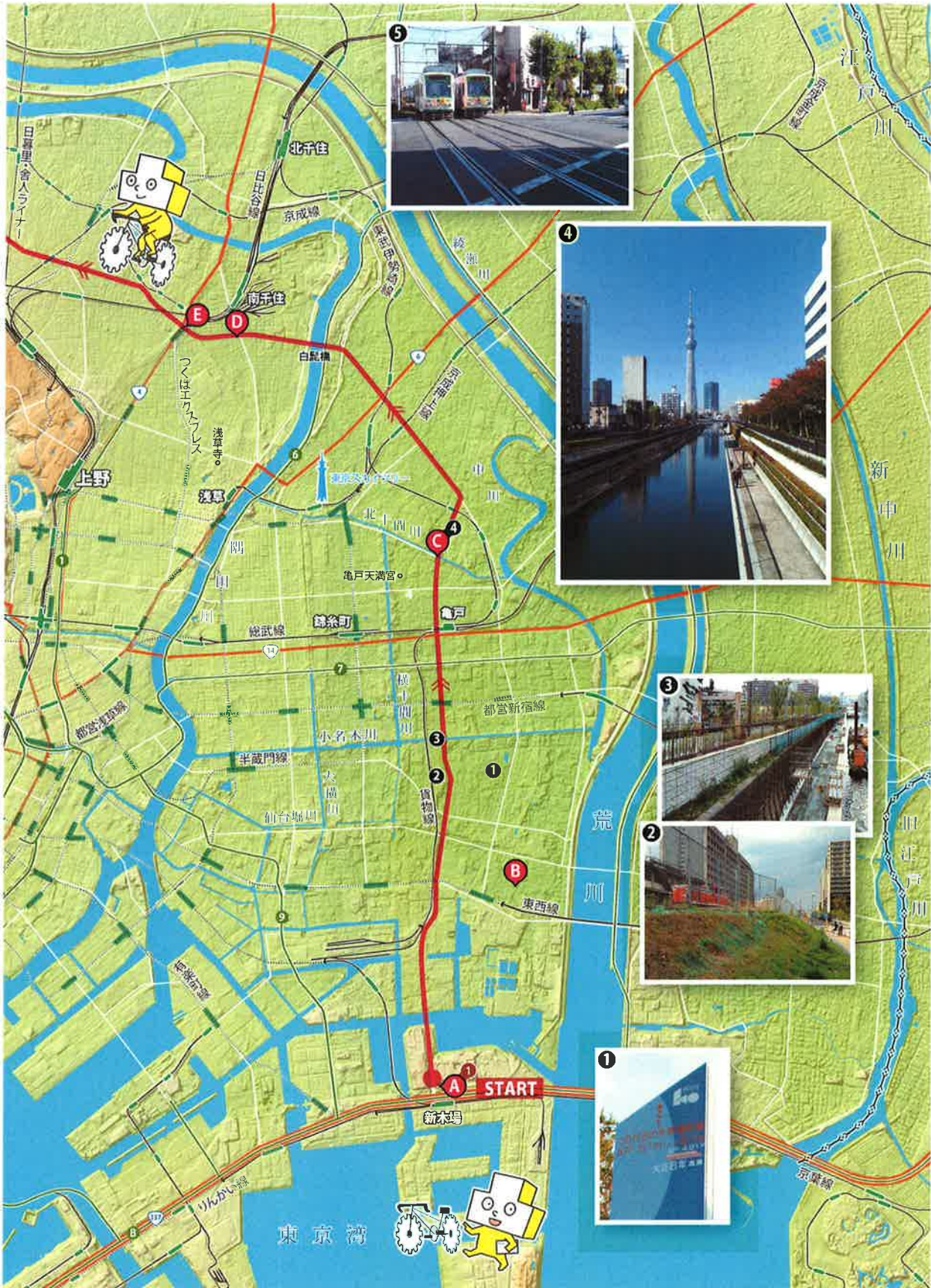


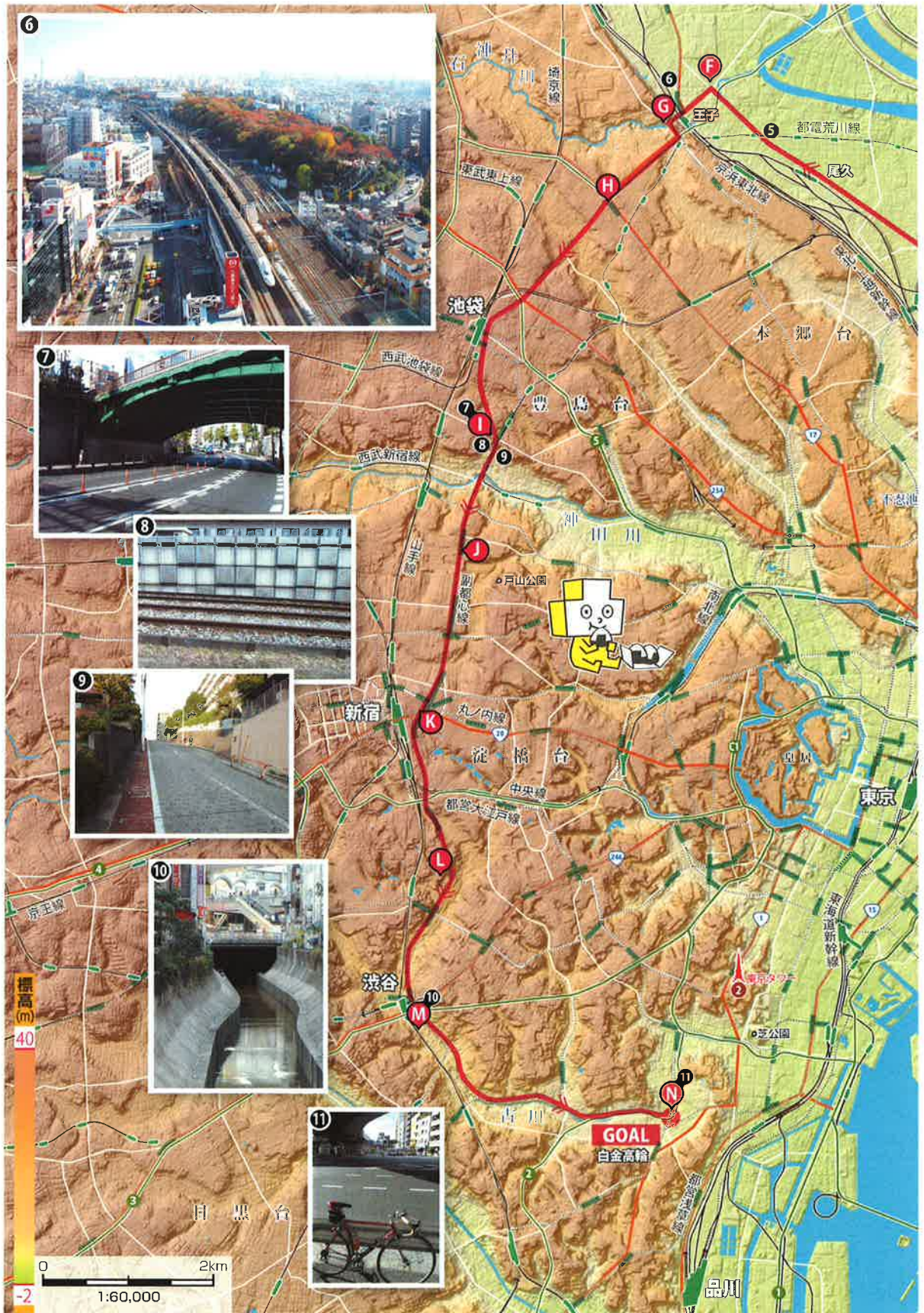
写真② 芝公園から眺める東京タワー

週末には大展望台まで階段で昇ることが出来ます。ステップ数は約600段！凸凹ライドに物足りなければぜひチャレンジを。



図① 明治通りの断面図





# 品川・台場

東京のウォーターフロントを歩く、見る、掘りまげろ

東京湾最奥部、いわゆる「ウォーターフロント」には、直線状の人工的な海岸線を抱えた埋立地がぶかりぶかりと浮かんでいます。臨海副都心の台場や有明には、ショッピングモールや大型展示場があり、砂浜や緑地もあるのですが、当然ながらそれらは人工的に演出された「自然」。それでは、本物の自然の海岸線はいったいどこにあるのでしょうか。

ウォーターフロントを見渡すと、西側からは武蔵野台地の縁が水際に迫り、北側には隅田川下流の低地、そして前面には低地より高い埋立地と、都内でも珍しく地形の逆転が見られる地域です。台地の麓に連なる微高地は、砂が海流に乗って堆積した砂州・砂堆。その前面は過去の海岸線ですから、この目黒川河口から品川駅、日比谷公園を抜けるラインに、過去の海岸線を復元することができます（青波線）。また、東京駅

から銀座周辺にかけても江戸前島と呼ばれていた砂州があり（A）、砂州に囲まれた日比谷は穏やかな入江になっていました。砂州をつくる砂は、当時東京湾に注ぎ込んでいた古利根川が運び込んだもので、この地域には干潟や砂州が広く発達していたようです。

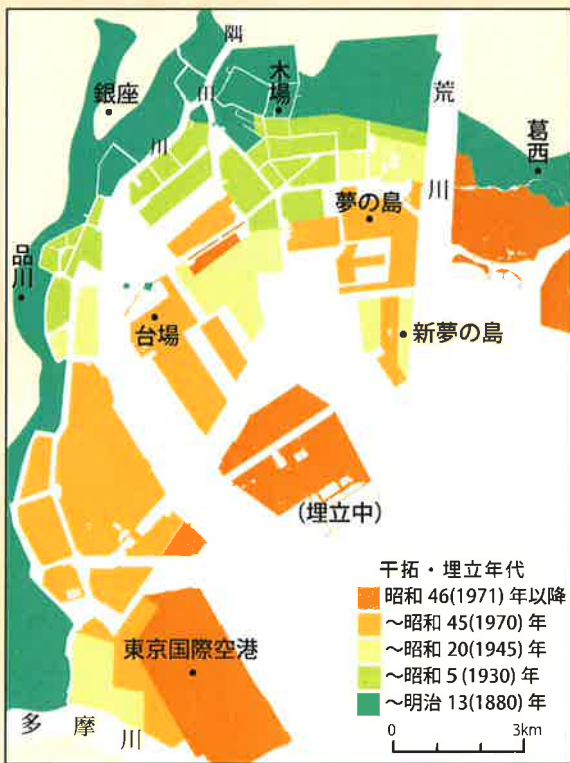
やがて幕府により古利根川が東遷させられると、干拓と埋立が進みました。埋立には当初、各地の土木事業の残土が利用されていましたが、その後、家庭ゴミや火災、震災の瓦礫も使われるようになり、その「材料」には事欠かなくなったようです。江戸のウォーターフロントも「夢の島」だったわけで、現代にも通じる都市問題を抱えていたことが伺えます。埋立ては日比谷入江をはじめ、明治初期までに築地、石川島、佃島、越

中島から木場の辺りまで進み、西側は町人町や武家町が形成されて商業や経済の中心地に成長し、東側には寺社町と庶民の暮らしが広がる空間が形成されました。

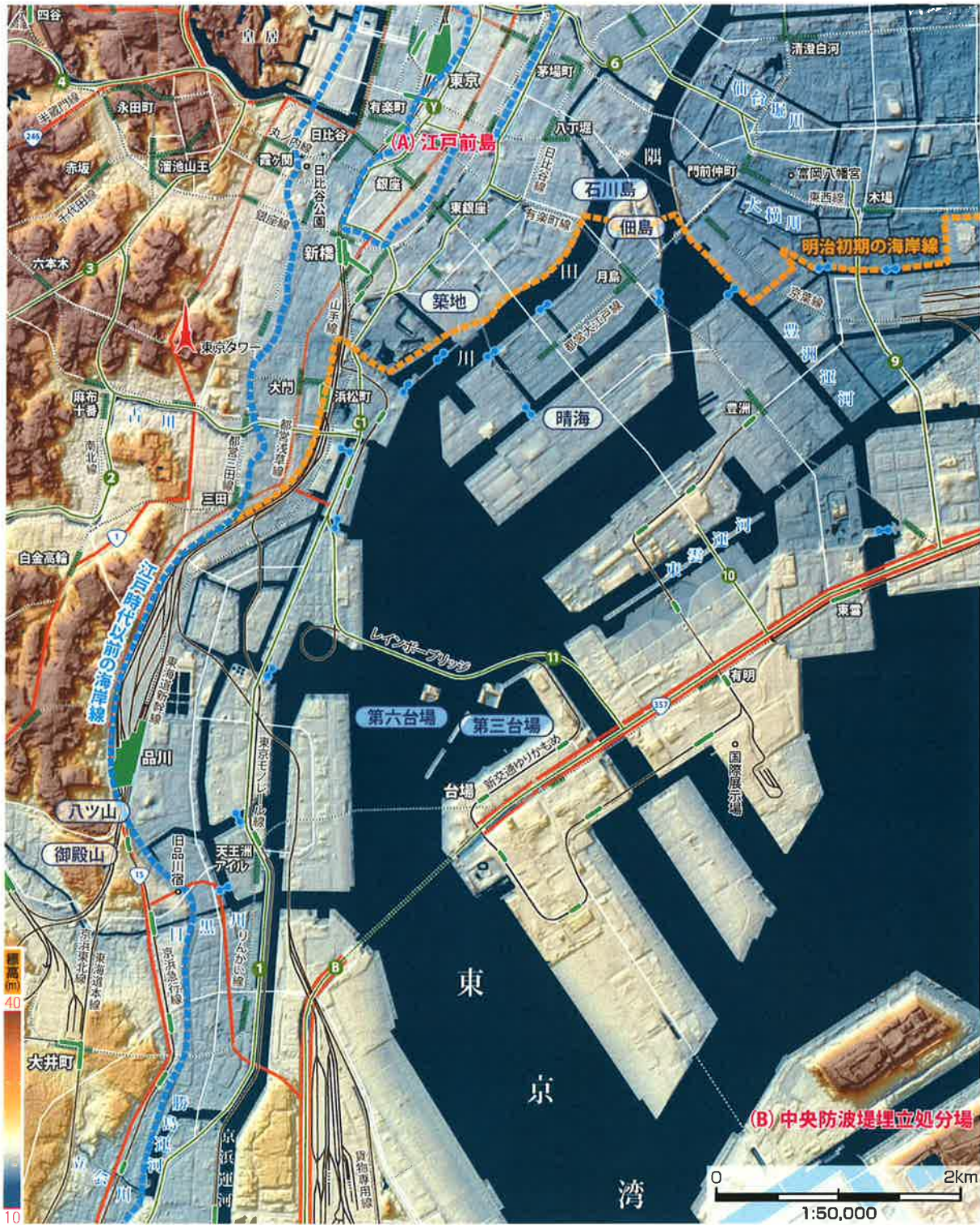
明治以降は産業の発展も目覚まし

現在でも、東京のゴミは台場の南に浮く中央防波堤埋立処分場で処理されて、東京港の中心に30m以上にもなる高い山を築いています（B）。

東京臨海部における埋立地の変遷



東京臨海部の埋立て面積は約8700haと推定されている（江戸期～平成2年まで、国土庁：1993年資料）。ゴミの島として知られる夢の島は、戦前に国際空港を建設する計画で埋め立てられた場所だが、空港の計画が東京国際空港整備へとシフトしたため、皮肉にもゴミ処分場として利用されることになった。



品川以北の台地は淀橋台（下末吉面）、大井町駅付近の台地はそれより一段低くて平坦な目黒台（武蔵野面）が広がる。御殿山や八ツ山周辺は台場建設時に切り崩されたので平坦だが、本来はここも淀橋台。砂州、砂堆は目黒川や古川河口にも堆積して排水環境を悪化させたが、この微地形を利用して通されたのが旧東海道だった。日本橋から銀座、大門を通り、目黒川河口の砂州には初宿の品川宿が開かれ、大変な賑わいを見せたという。隅田川下流の低地はいわゆる「海拔ゼロメートル地帯」で、複数の水門や排水機場を設けて高潮対策が講じられている。本図の最高点は中央防波堤埋立処分場（標高30m）。その高さは西側の台地よりも高い。（詳細は118ページ）